



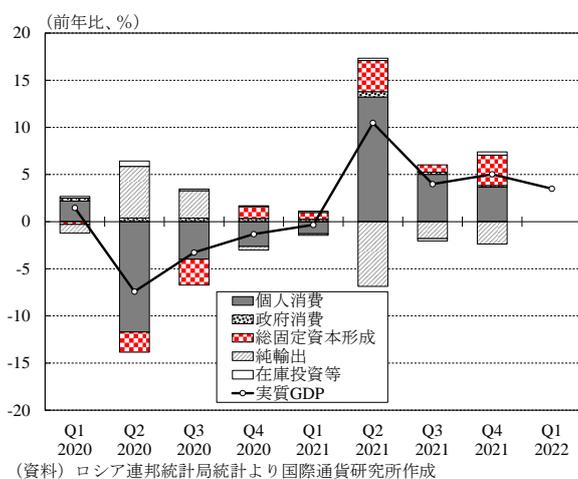
2022年6月24日

## ロシア経済の落ち込みは不可避も、マイナス幅は幾分緩やかか

公益財団法人 国際通貨研究所  
経済調査部 研究員 小宮 佳菜

ロシアの2022年1-3月期の実質GDP成長率は前年比+3.5%と前期(同+5.0%)から伸びが低下した(第1図)。2月末のウクライナへの軍事侵攻に対し、3月以降は欧米等の経済制裁が実施されたことから、その影響が注目されるが、1-3月期の成長率にはそれほど大きな影響はみられない。需要項目は未発表のため、3月以降の動向を月次の経済指標でみてみる。

第1図：実質GDP成長率の推移

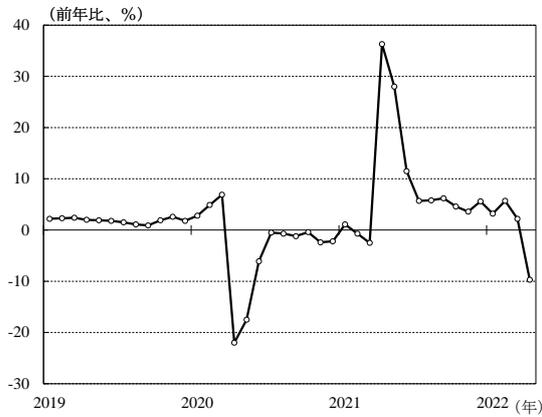


まず、個人消費について、直近の小売売上高の推移をみると、3月は制裁の影響とインフレ加速への警戒感から食料品を中心に買いだめ需要が高まり、前年比プラスを維持したものの、4月はその反動とマインド悪化を受けて前年比▲9.7%と大きく落ち込んだ(第2図)。5月の新車販売台数も前年比▲83.5%となっている(第3図)。新車販売台数の大幅減には、前年の急速な伸びからの反動があるものの、経済制裁に伴う部品不足の影響も大きく、コロナ禍前の2019年月平均の5分の1以下の水準となった。足元の消費急減の背景には、外資企業の撤退や各国の禁輸措置に伴う供給不足が相応に大きいとみられる。

鉱工業生産指数をみると、2021年4月以降、前年比プラスを維持していたが、2022

年4月に前年比マイナスに転じた（第4図）。製造業が3月からマイナス幅を広げ、前年比▲8.5%となったほか、原油価格の高騰で好調だった鉱業も制裁の影響で生産が縮小し、前年比▲10%と大きく落ち込んだ。

第2図：小売売上高の推移



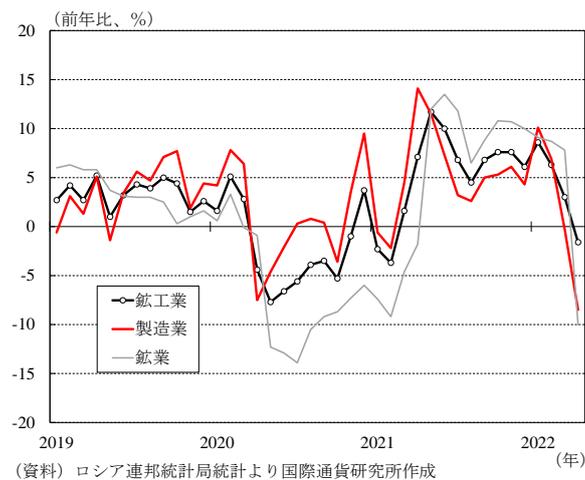
(資料) ロシア連邦統計局統計より国際通貨研究所作成

第3図：新車販売台数の推移



(資料) 欧州ビジネス協会統計より国際通貨研究所作成

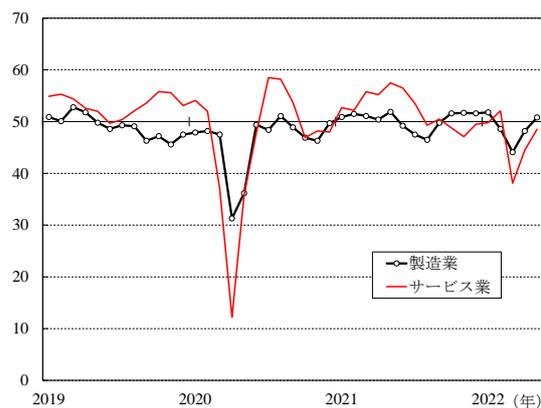
第4図：鉱工業生産指数の推移



(資料) ロシア連邦統計局統計より国際通貨研究所作成

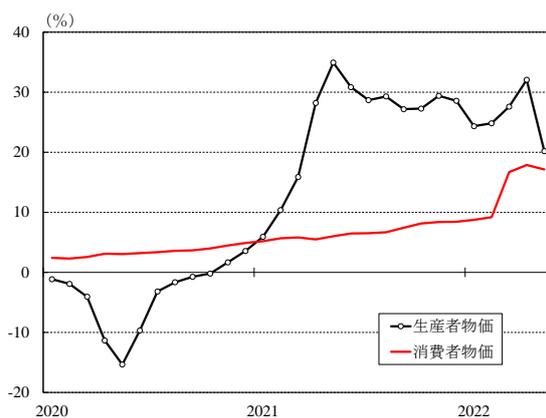
一方、企業マインドはウクライナ侵攻後、急速に悪化した後、足元では幾分持ち直しの動きがみられる。5月の製造業PMIは4ヶ月ぶりに好不況の分かれ目の50を上回った（第5図）。仕入価格の上昇が緩やかになるなか、生産・新規受注・雇用などの落ち込みが緩和された。また、5月のサービス業PMIも、3ヶ月連続で50を下回ったものの下げ幅は縮小した（同図）。この間、生産者物価は上昇ペースが大きく低下した一方、消費者物価は前年比+17%台と高い水準が続いている（第6図）。

第5図：製造業・サービス業 PMI の推移



(注) 50以上は前月から景況感が改善したことを示す。  
 (資料) マークイット社統計より国際通貨研究所作成

第6図：生産者・消費者物価上昇率の推移



(資料) ロシア連邦統計局統計より国際通貨研究所作成 (年)

このように、ロシア経済はウクライナ侵攻に伴う主要国による経済制裁の強化を受け、消費や生産が4月以降、急激に落ち込んでいる一方で、企業景況感の悪化には歯止めがかかりつつあるなど、経済の急収縮という状況には至っていないようである。この間、外需については、1-5月（累計）には資源高による輸出拡大と輸入減少から貿易黒字が急拡大しており、経済制裁の影響で海外からの物資の調達が困難になるなか、輸出維持と輸入急減が成長を下支えしている構図とみられる。6月8日にOECDが発表した経済見通しでは、2022年のロシアの実質GDP成長率は前年比▲10%まで落ち込むとの見方が示されたが、上述した足元の経済指標をみる限り、今後、大幅なマイナス成長が続くかどうかはやや不透明な状況にあると言えよう。

Copyright 2022 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: Nihon Life Nihonbashi Bldg., 8F 2-13-12, Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo 103-0027, Japan

Telephone: 81-3-3510-0882

〒103-0027 東京都中央区日本橋 2-13-12 日本生命日本橋ビル 8 階

電話 : 03-3510-0882 (代)

e-mail: [admin@iima.or.jp](mailto:admin@iima.or.jp)

URL: <https://www.iima.or.jp>

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。